
旧大津公会堂【社会教育会館】の保存と活用を考える市民フォーラム

日 時：平成18年10月12日〔木〕 午後7時00分～午後8時55分

場 所：大津市浜大津一丁目4番1号 社会教育会館〔1階〕

パネラー：10名（別紙記載のとおり）

出席者：33名

1. あいさつ [大津市都市計画部施設監 寺田智次]

- ・ 中心市街地を元気づける手段のひとつとして『古い』ものがある。
- ・ ソフトとしては『大津祭』であり、ハードとしては『町並み』や『町家』である。これらが活用できないか。
- ・ この社会教育会館は歴史あるものだが老朽化しており、今後どうしていけばよいかについていろいろな立場からご意見をいただき、中心市街地の活性化にかかる政策実現のための貴重な意見としたい。

2. 社会教育会館の紹介（館内の案内） [大津市都市計画部都市再生室 草薙 卓]

- ・ 3階ホールの梁型を見せた室内意匠は優れているといわれ、また木板張りの空間は音響効果に優れていると好評を得ている。
- ・ 外壁にはスクラッチタイルが貼られ水平線を強調した手法で、近代建築の四大巨匠の一人とも呼ばれるフランク・ロイド・ライトの影響を受けていると言われている。
- ・ アーチ窓やアールデコ風の装飾がちりばめられたデザインは1930年代の建築意匠の一典型でもある。

3. 講演：古い建物を活かしたまちづくり [株式会社再開発研究所代表取締役 横島 毅]

- ・ 古い建物はすべて保存すべきという立場でお話するわけではないが、新しいものに目がいき、古いものが軽視された時代がある。
- ・ まちを見ていると、古い建物があるところには潤いを感じられ、また歴史感があり、住んでみたいと感ずることがある。
- ・ 尼崎市塚口町にあった古い和洋折衷住宅がマンション建設のためにつぶされかけたが、その内装の一部をホテルの一室に移築し保存した事例がある。現在は宴会場として使用されており大変人気があるが、保存についてホテルのオーナーの理解があったからこそ成功したのだと思う。
- ・ 社会教育会館を保存しようとするということについても、その哲学をしっかりと持ち、市民の方々に理解を得ることが必要で、社会教育会館をまちづくりに活かすということはどういうことかを市民にしっかりと示す必要がある。
- ・ 古いから残すというだけでは、支出される費用に見合わないと思う。

【スライドを用いた事例紹介】

- アメリカ：1970年代にスーパーマーケットが進出、メインストリートが疲弊した事例。1980年代にそれに気付いたが回復しなかった。

そこで『まち』とは何なのか、というところから再出発した。

アメリカはまちづくりを道路づくりから始めるのではなく、まず理念からとしている。

もともと歴史がないので、古い建物は残し、歴史に厚みを持たせるようにしている。

歴史を後世に残すためには建物が必要である。

○ 舞鶴の事例：煉瓦博物館（元は魚雷工場）

○ シカゴ：再開発ビルの事例。

きれいなファサード。古く朽ち果てていた建物を直した。

ホールは市民から保存の声が挙がり、外観はそのまま残した。

○ 伊賀の事例：藩校

○ ライプツィヒの事例：駅

○ ベルリンの事例：オラニエレブルグ通り地区 連邦議会

ドーム部分はガラス張りに更新（古いものと新しいもののコラボレーション）

○ パリの事例：鉄道敷き（高架）の利用

○ 彦根の事例：キャッスルロード

○ 長野の事例：町家通り

○ アメリカの事例：ポイジー

- ・ 京都大学教授のコメントとして、『文化1000年、環境10年』という言葉がある。文化を築き上げるには長い年月が必要だが、環境は一瞬で変わる。
- ・ 古いものを大切にしないと潤いを感じさせない。文化のない町は記憶力を失った脳のようなと思う。
- ・ 美しいまちとは、建物、人のつき合いの美しさであり、それが住みやすさを感じさせる。
- ・ 文化が少ない町がある中、大津には文化がある。それを大切にしてほしい。

4 意見交換【進行役：株式会社再開発研究所代表取締役 横島 毅】

【大津まちなか元気回復委員会・社会教育会館利活用検討部会部会長 上田良三】

- ・ 私が大津市中央学区の自治連合会長を務めておりました平成15年に、中央学区、長等学区、逢坂学区の3学区の連名で、この歴史ある社会教育会館をまちづくりに活かしてほしいと、ぜひ保存してほしいと前大津市長あて要望書を提出させていただきました。
- ・ このことを発端に、これまで商店街の問題として見られがちであった「まちの活性化」を住民の問題と捉え、中央、長等、逢坂の自治連合会が中心になり、住民の視点からまちの活性化に取り組もうと大津まちなか元気回復委員会が組織されております。
- ・ 社会教育会館は、大津商工会議所と市立図書館を併設する『大津公会堂』として昭和9年に建設されました。戦後は、日本で最も早い時期の公民館として利用されるなど、今日まで地域住民にとって身近な施設として、また「昭和」ロマン漂う風格ある建物として多くの市民に親しまれてまいりました。
- ・ 古都大津の玄関口、大津百町に位置するこの社会教育会館を、中心市街地の活性化に寄与する施設として、今後のまちづくりに活かすためにも、ぜひ残していただきたいと、活用を図っていきたくと考えている。

【大津まちなか元気回復委員会委員長 酒井英夫】

- ・ 委員会として検討してきた利活用の方針を提案させていただきたい。
- ・ 市民が、また観光客が気軽に立ち寄れる、安らぎやくつろぎ、交流の図れる空間として利活

用を図っていききたいと考えている。

3階：ホールとして、木板張りの音響効果のあるスペースとして残すとともに、多種多様のイベントが開催できるように。

2階：憩い、交流、まちづくり活動のスペースに。

1階：まちなかの情報発信のスペースや“おもてなし”の心をもつレストランスペースを。

地下1階：市民ギャラリーとして、広く市民に開放する。

- ・屋上については、耐震性を考慮し、軽量化を図る観点から利活用は考えていない。

[大津まちなか元気回復委員会委員・逢坂学区自治連合会長 磯村満雄]

- ・私は社会教育会館と同じ年齢で、時期同じくして育ってきた。親しみもあり愛着もある。
- ・中心市街地は少子高齢化が進んでおり、社会教育会館を活性化に活かしたい。
- ・新しいものを取り入れることも必要だが、古いものはより大切にしていきたい。

[大津まちなか元気回復委員会委員・長等学区自治連合会長 林 賢治]

- ・まちを元気にする根本は、内発的な力をどのように活かしていくかだと思う。
- ・まちが持っている力を引き出す。その力は資源である。
- ・歴史、建物、そして文化は資源である。
- ・大津公民館はさまざまな文化活動の場としても利用されてきた。まちづくりの中心に据えてスポットを当ててほしい。

[滋賀県建築士会大津支部幹事・特定非営利法人大津祭曳山連盟理事 白井勝好]

- ・この建物は、近代遺産として価値のあるものだと思う。
- ・歴史ある建築物でもあるので、外観をこのままに活用を図ってほしいが、建築士の立場としては安全性の確保も重要なことと捉えている。市民に安全に利用してもらいたい。
- ・構造的な補強は必要だが、補強できない建物ではない。
- ・曳山連盟としても情報発信機能には協力していきたい。

[大津の町家を考える会代表 青山葛子]

- ・この10年間、外（坂本）からお節介を焼いて、まちづくりに参加している。

[大津青年会議所理事長 櫻場貴子]

- ・大津青年会議所はこの2階で活動している。
- ・私たちの年代は、食事をする店を選ぶときに、新しいものよりも古いものが使われているような店に惹かれる。

[大津市文化連盟事務局長・瀬田東文化振興会会長 松田文男]

- ・ここは大津市文化連盟の発祥の地。ここに戻ってきて文化を発信したい気持ちがある。
- ・ここは県の玄関であり、文化の中心であった。
- ・付近住民に愛される建物になってもらいたい。
- ・まちの、大津の歴史が分かる資料館として使って欲しい。

[大津市都市計画部施設監 都市再生室長 寺田智次]

- ・パネラーの方々の発言を聞いていて、この建物に対する思い入れを感じた。
- ・それを大切にしないと魂の入らない単なる箱になってしまうと思う。

5. 会場からの意見、質疑など

- ・利活用プランを聞いていて、具体性に欠けていると感じた。今後の維持、管理費用をどうするのか、お金を生み出す工夫が必要である。

- ・ ホールに収益性がない。ただ税金を投入するのではなく、この建物自体で採算がとれるようにする必要があると思う。
- ・ 歴史もあり残すべきだとは思いますが、維持管理の方法に工夫が必要だ。独自の採算性がなければ生きてこない。
- ・ レストランもいいが、数年後に空き店舗対策をという話にならないか。
- ・ 京都に町家を活用した、全国で予約が一番難しいといわれる宿泊施設がある。風合いもよくリーズナブルな施設で全国の憧れのまとなっていると聞く。例えば琵琶湖ホテルのはなれ（別館）として客室に改修すれば、古い味わいのあるホテルとして人気も出るのではないか。
- ・ 外観をこのままにマンションにしても魅力がある。
- ・ 小学生のとき、通っていた小学校が火事で使えず、ここに通学した思い出があり、思い入れもある。
- ・ 建物には、その建物の持つ目的という寿命があると思う。今、その目的が変わろうとしている。公会堂からどの様に変わっていくのか。利活用を図る上で、この建物が持つ物語を大切にしてもらいたい。何を残して、何を变えるかの検証をしてほしい。
- ・ 残すのなら、これまで以上に管理をしっかりしてほしい。
- ・ アーカスには人が集まってきている。その人たちをどのようにこちら側に誘導するか。
- ・ 若い女性に来て貰いたい。そのためには周辺も含めて明るくしてほしい。
- ・ 内装は安価できれいに。トイレを多く配置してほしい。
- ・ 広報おおつを見て来場したが、3自治連合会で話を進めているような印象を受けた。
- ・ まちづくりや活性化のこと、明日都浜大津、社会教育会館。これらを全体的に捉えて考える必要がある。この場所をどうしていくのかを考えることが基本ではないか。
- ・ 青山さんがこの10年お節介で来ているということを行ったが、その10年で市民の意識はどう変わったのか。（何も変わっておらず）不満である。

6. まとめ

[大津市都市計画部施設監 都市再生室長 寺田智次]

- ・ 今回は、まず地域に住んでおられる方々に利活用について議論をしていただき、その内容をもってフォーラムを開催させていただいた。
- ・ 採算性も課題の一つであり、これからも継続してみなさんの意見を聞く場を設けていきたい。

[株式会社再開発研究所代表取締役 横島 毅]

- ・ アメリカには、メインストリートプログラムというものがある。メインストリートには小売り店舗があるが、それが衰退するとシャッター通りになってしまい、生活に困る結果となる。そのため、オフィスビルの1階には必ず小売り商業を入れて連続性を持たし、まちの賑わいを創るようになっている。
- ・ まちにおけるこの建物の位置づけが大事であると思う。
- ・ 行政よりも住民の声が大切。情熱を持って語ることが一番だと思う。そこに議論が生まれてくる。

[閉 会]

■ パネラーの方々

【コーディネーター】

横島 毅 株式会社再開発研究所 代表取締役
立命館大学大学院非常勤講師
奈良県立大学非常勤講師
全国市町村再開発連絡協議会 顧問
再開発プランナー

【パネラー】

酒井英夫 大津まちなか元気回復委員会 委員長
大津市中央学区自治連合会 会長

磯村満雄 大津まちなか元気回復委員会 委員
大津市逢坂学区自治連合会 会長

林 賢治 大津まちなか元気回復委員会 委員
大津市長等学区自治連合会 会長

松田文男 大津市文化連盟 事務局長
瀬田東文化振興会 会長

青山菖子 大津の町家を考える会 代表

上田良三 大津まちなか元気回復委員会 委員
同社会教育会館利活用検討部会 部会長

白井勝好 滋賀県建築士会大津支部 幹事
特定非営利法人大津祭曳山連盟 理事

櫻場貴子 大津青年会議所 理事長

寺田智次 大津市都市計画部 施設監（都市再生室 室長）